F2-43

「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究
ー（その３）北海道室蘭市における市民の心理的要素から捉えた地域構造に着目してー
A Study on Minato-Machidukuri Using “Location Normalization Plan” in Waterfront Area
- (Part3) Focus on the regional structure from view of citizen psychological factor in Muroran City, Hokkaido -

○三輪陽子[1]，岡田智秀[2]，三溝裕之[3]，勇﨑大翔[4]
*Yoko Miwa[1], Tomohide Okada[2], Hiroyuki Samizo[3], Hiroto Yuzaki[4]

Abstract: The purpose of this study is to clarify the method of Minato-machidukuri using “Location Normalization Plan” in Muroran city, Hokkaido. As a result, this paper led to the realization plan of "Minato-machidukuri" in the Chuo district, Nakajima district and Higashi district within the urban function guidance area.

１．研究目的；人口減少や超少子高齢社会といったわが国の都市問題に対応すべく，コンパクトなまちづくりを目指す「立地適正化計画（以下；立適）[1)]」の策定が各地で展開されてきた．この取り組みは，港湾を有する地域においても実施されており，これまで別々の政策によって整備されてきた，港湾エリア（主に臨港地区）と都市エリアが一体となる“みなとまちづくり”の推進に期待がかかる[2)]．これまで，勇﨑らの先行研究[3)]では，平成 31 年３月に「立適」を策定した工業港湾を有する北海道室蘭市[4)]を対象に，「立適」の「都市機能誘導区域[(1)]」が設定された「中央地区」と「中島・東地区」における市民意識や生活行動から地域構造を把握し，「立適」を活用した“みなとまちづくり”実現にむけた可能性を検討してきた．しかし，その実現に向けた具体的な方策については明らかにされていない．

そこで，本研究では，上述の先行研究で導いた今後の展望や課題解決策を実現するため，室蘭市民が室蘭市内の場所や施設等から受ける心理的要素をもとに本市の地域構造を捉え，その結果と「立適」によって港湾と都市をつないでいくための方策について提示する．

２．研究方法；以上を踏まえ，表１のアンケート調査を実施した結果，被験者 105 人の有効回答を得た．

表１　調査概要　［筆者作成］

アンケート調査	
調査期間	令和元年 8 月 31 日（土）～令和 2 年 10 月 19 日（月）
調査対象	令和元年 8 月 31 日（土）実施のまちづくりトークイベントおよび令和元年 11 月 25 日（月）実施の室蘭市まちづくり講演会参加者 200 名に手渡しにてアンケートシートを配布し，郵送による返送にて得た 105 件の有効回答を対象
調査項目	・居住区周辺で好きな場所とその理由（5 つ以内） →被験者がアンケートシートに記入
	・室蘭市内で嫌いな場所とその理由（5 つ以内） →被験者がアンケートシートに記入
	・市民が参加するイベントや祭りとその開催場所（5 つ以内） →被験者がアンケートシートに記入
被験者の属性（N=105）	
性別	男性：83 人（79.0%），女性：22 人（21.0%）
年齢	20～30 代：31 人（29.5%），40～50 代：33 人（31.4%），60～70 代：37 人（35.2%），80 代以上：4 人（3.8%）
職業	会社員：13 人（12.4%），自営業：4 人（3.8%），公務員：41 人（39.0%）， 学生：8 人（7.6%），主婦：3 人（2.8%），無職：24 人（22.9%），その他：12 人（11.4%）
居住地区	蘭西地区：41 人（39.0%），蘭東地区：48 人（45.7%），蘭北地区：16 人（15.2%）
居住年数	1～10 年：23 人（21.9%），11～20 年：12 人（11.4%），21～30 年：17 人（16.2%），31～40 年：10 人（9.5%），41～50 年：16 人（15.2%），51 年以上：27 人（25.7%）

３．結果および考察；表１のアンケート調査により，被験者がアンケートシートに記入した「居住区周辺で好きな場所」と「室蘭市内で嫌いな場所」，「市民が参加するイベントや祭り」のそれぞれについて集計した結果を地図上に示したものが図１～３である．

以降はこれらをもとに都市機能誘導区域が設定された中央地区および中島地区・東地区を中心に考察する．

（１）中央地区

１）「居住区周辺で好きな場所」と「室蘭市内で嫌いな場所」；図１の「居住区周辺で好きな場所」に着目すると，生活の利便性としての「日常利用施設」をはじめ，生活の豊かさとしての「娯楽施設」や「景色がきれいな場所」など，住環境としての良さを感じる施設や場所が多く挙げられ，これらが港湾から市街地にかけて連続して広がっている実態を捉えた．これより，中央地区において「立適」を活用した「みなとまちづくり」を展開するにあたっては，こうした市民の好む場所が連続する空間を活用し，背後市街地から港湾エリアへと生活行動を誘導していく方策が望まれる．

一方，図２の「室蘭市内で嫌いな場所」に着目すると，コンパクトシティ政策を推進する「立適」の計画区域内であるにも関わらず，管理の行き届いていない施設や空地・空き家が背後市街地から港湾エリアにわたってみられた．したがって，このような低未利用地[(2)]が住民に不便さを感じさせているとともに，背後市街地から港湾エリアへの連続性を妨げる要素にもなっているため，「立適」の計画区域内の低未利用地をいかに減らし，港湾エリアと背後市街地の連続性をいかに強めていくかの検討が急務であるといえよう．

２）「市民が参加するイベントや祭り」；図３の「市民が参加するイベントや祭り」に着目すると，「港祭り」や「スワンフェスタ」に多くの市民が参加している実

１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち　３：日本工営株式会社　４：日大理工・院（前）・まち

態を捉えた．この要因としては，「港祭り」が太平洋戦争敗戦後に荒廃してしまったみなとまち「室蘭」を復興するべく始まったことや，「スワンフェスタ」が室蘭市のシンボルである「白鳥大橋」の開通を記念して始まったものであるなど，地域に根付いたイベントであることが挙げられる．このように地域資源である港湾を活かしたイベントは地域の中で親しまれ，多くの人が訪れるため，この際に会場となる遊休岸壁などを日常的により一層活用していく取り組みが望まれる．

（２）中島地区・東地区

１）「居住区周辺で好きな場所」と「室蘭市内で嫌いな場所」；図１の「居住区周辺で好きな場所」に着目すると，「日常利用」や「娯楽施設」が陸域側の市街地内で多く広がっていたものの，港湾エリアにはその広がりは見られなかった．ここで，図２の「室蘭市内で嫌いな場所」に着目すると，「環境」の不衛生さから「工場群」が挙げられ，「工場群」が都市と港湾の分断要素となり，市民が港湾エリアに近寄りがたいと感じている現状が捉えられた．したがって，この点がみなとまちづくり実現に向けた課題点として抽出された．

一方，中島・東地区の背後の高台エリアでは，港湾エリアの「景色」が評価の中で見られ，港湾エリアを遠景の俯瞰景として楽しむ点において評価がなされた．これは，室蘭市が港湾を中心としたすり鉢状の地形を有しており，高台から港湾や街並みを一望できるためである．これより，日常利用施設や娯楽施設といった市民が積極的に利用する施設の上層階において高台視点場を設けるなど，視覚的にみなとまちとしてのイメージが向上できるみなとまちづくり方策が望まれる．

４．まとめ；以上より，中央地区では，「市民が好きな場所」が背後市街地から港湾エリアにかけて連続する実態が捉えられた一方，「市民が嫌いな場所」では空地・空き家といった低未利用地が挙げられ，連続性を妨げる要素もまた捉えられた．したがって，「市民が嫌いな場所」となる低未利用地をコミュニティ形成の場へと転換したり，イベントを通して市民に認知されている港湾エリアの遊休岸壁を日常利用していくなどにより，市街地から港湾エリアに至る連続性を強化することが当地区のみなとまちづくりにおいて重要となろう．

他方，中島・東地区においては，内陸の市街地を中心に「市民が好きな場所」が広がるとともに高台からの港湾エリアの俯瞰景が好まれる一方，市街地内では港湾エリアの工場群が好まれていないことから，室蘭市が有するすり鉢状の地形を活かし，市民が日常的に利用する施設の上層階や屋上等に高台視点場を設けることにより，港湾エリアを遠景の俯瞰景として楽しめるみなとまちとしてのイメージ向上策が望まれる．

謝辞；本研究成果は，研究奨励寄付金（日本工営株式会社）による．本調査にあたり多大なご協力を頂いた室蘭市都市政策推進課北村祐貴氏に感謝致します．

補注；（１）都市機能誘導区域とは，医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより，これらの各種サービスの効率的な情報提供を図る区域である．／（２）低未利用地とは，適正な利用が図られるべき土地であるにも関わらず，長期間にわたり利用がされていない土地のことである．

参考文献；１）国土交通省：「みんなで進めるコンパクトなまちづくり～いつまでも暮らしやすいまち～～」，https://www.mlit.go.jp/common/001195049.pdf（最終閲覧日：2020.10.19）／２）都市計画通信社：港湾空港タイムズ，都市計画通信社，p.1，2019.6.3／３）勇﨑大翔ほか２名：「立地適正化計画を活用したみなとまちづくりに関する研究－北海道室蘭市における市民意識から捉えた地域構造に着目して－」，土木学会年次学術講演会概要集，第４部，2020／４）室蘭市：「室蘭市立地適正化計画」，http://www.city.muroran.lg.jp/main/org7310/documents/ritteki.pdf（最終閲覧日：2020.10.19）

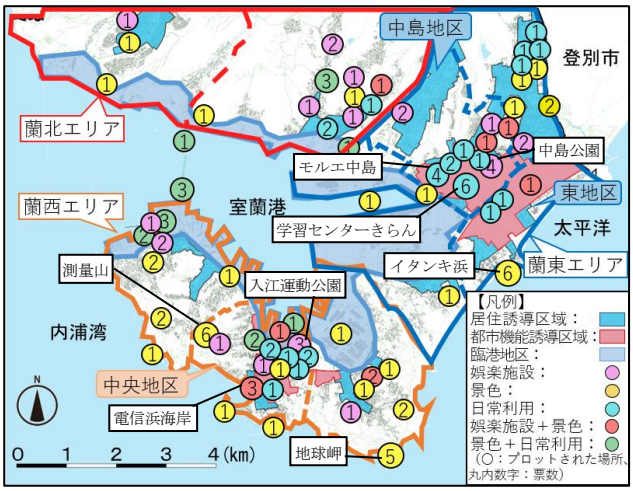

図１　「居住区周辺で好きな場所」　［筆者作成］

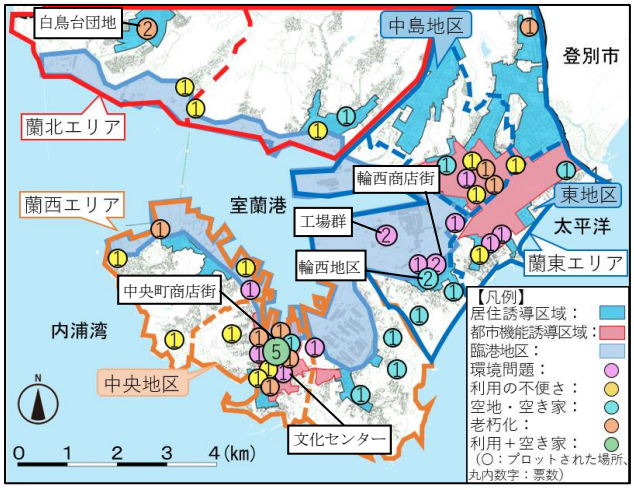

図２　「室蘭市内で嫌いな場所」　［筆者作成］

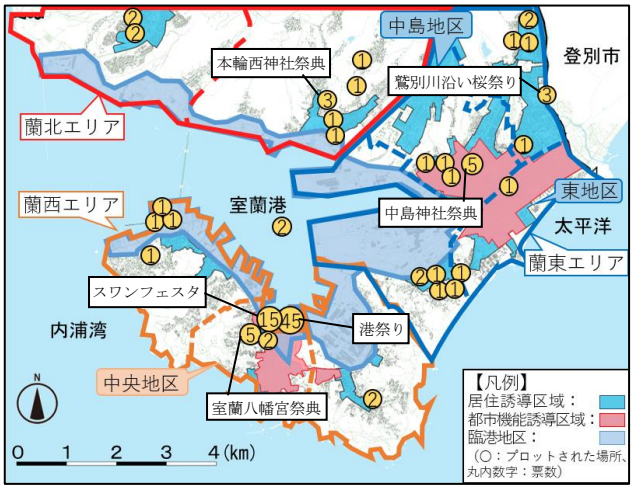

図３　「市民が参加するイベントや祭り」　［筆者作成］